

フィリピンのマルコス Jr.大統領と日本船主協会代表団が面談

2月9日午後、池田潤一郎会長（商船三井会長）をはじめとする日本船主協会代表団は、フィリピン共和国フェルディナンド・マルコス Jr.大統領来日の機会にフィリピン移民労働者省（Department of Migrant Workers）スーザン・オプレ長官が主催する同大統領との面談会へ出席した。

面談会には、フィリピン側からマルコス Jr.大統領、大統領夫人、アロヨ元大統領、スビリ上院議員、オプレ長官、同局職員他が出席、当協会からは池田会長、明珍副会長（川崎汽船社長）、内藤前会長（日本郵船会長）、友田常勤副会長、松尾理事（出光タンカー社長）、近藤理事（共栄タンカー社長）、春山理事（旭タンカー社長）、中島前副会長（MOLマリン&エンジニアリング社長）、喜多浦海運 原社長、極東海運実業 海部社長、森重理事長が出席した。また、我が国海運業界と関係の深い



マルコス Jr.大統領（左）に記念品を渡す池田会長

Philippines-Japan Manning Consultative Council (PJMCC) のレヒオ会長、ドリス・マグサイサイホー氏他も同席、オブザーバーとして日本船主責任相互保険組合 高橋理事長他、日本海運関係企業3社の関係者が参加した。

面談では、まず池田会長より、過去3年間世界中で新型コロナウイルス感染が拡大し、各国で厳格な水際対策が敷かれた状況下でも、フィリピン政府から船員交代に対し最大限の配慮や協力を得られたことについて感謝の意を表した。また、日本の海運業界とフィリピン国が強いきずなで結ばれた友好関係にあることを強調し、今後もフィリピン人船員の育成に協力することを述べた。

その後、マルコス Jr.大統領から、フィリピン経済発展のためにも海外で働く船員は非常に重要であり、日本船主は長年にわたり多くのフィリピン人船員を雇用しているだけでなく、教育・訓練にも協力していることに感謝の意を述べた。また、日本の海運界が質の高いフィリピン人船員の育成に引き続き協力して欲しいと述べた。

これらを通じて、フィリピン政府と日本海運業界は良好な協力関係を維持・継続して行くことを確認した。

マルコス Jr.大統領及びフィリピン政府関係者他と日本船主協会代表団の記念写真

